※令和３年度以前入学生用

学校番号	３０１９

令和５年度　地理歴史・公民科

教科	公民科	科目	現代社会	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	新現代社会　改訂版　（第一学習社）						
副教材等	ライブ！2022 公共、現代社会を考える（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科の学習を通して、今日の社会の課題について理解と関心を深めてください。
・日本国憲法や基本的人権についての学習を通じて、民主主義社会の一員としての自覚と、より民主的な開かれた社会の実現をめざす公民的資質を身につけてください。
・この教科で扱う諸問題はいずれも現在進行形の課題です。刻々と変化する事態に追いつき自分なりの考えを構築するためにも、新聞や様々な媒体で発せられる識者の意見、ネットなどにも触れてください。授業でもいくつか紹介していきます。
・定期テスト 70％・平常点 30％の割合で成績を出します。平常点は小テスト・提出物など、総合的な観点でつけます。

2　学習の到達目標

・現代社会を理解するうえで、必要な知識を獲得し、メディアリテラシーを養う
・人権を尊重し、多文化主義の立場に立って他者を尊重できる民主主義社会の一員たる資質を獲得する
・社会問題に関心を持ち、自分の意見を持って政治や社会への参加を積極的に行う力を獲得する

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の社会の諸問題について関心をもち、その進むべき道について自由と平和と幸福を求める自分の人生と結びつけながら、自分なりの考えを獲得する意欲と態度を身につける。	写真や動画の直接性は大切であると同時に、情報操作によって誤った判断に陥る危険もある。言語・文字による資料を読解し、概念形成を経て認識に至る過程を繰り返し、思考力と判断力を育成する。	教科の中で報道や専門家の見解、現場の声や統計資料など、様々な資料を提示しつつ、それをふまえて自分なりの考えを理論的に構築する力を身につける。	現代社会を理解するうえで必要不可欠な知識を獲得すると同時に、この知識を土台にして現在なお進行中である現代社会の諸問題の所在を理解する力を養う。
評価方法	授業中の発言や態度 小テスト 提出物	授業中の発言や態度 定期考査	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	国際政治の動向	・国際社会と国際法 ・国際的な人権保障と国際政治 ・国際連合と国際協力 ・冷戦の成立とその崩壊 ・こんにちの国際政治	○	○	○	○	a:国家や法の支配、民主政治に対する関心を高めようとしているか b:民主国家の成り立ちを歴史的背景から多面的にとらえ、過程や結果を適切に表現している c:資料を活用し、情報をまとめている d:日本国憲法の構造と内容について理解し、主権者として政治に関わる姿勢を身につける	定期考査 プリント
二学期	現代社会と人間としてのあり方生き方	・現代の経済社会と私たちの生活 ・国際政治の動向と日本の役割 ・国際経済の動向と日本の役割	○	○	○	○	a:国際政治や経済に対する関心を高めようとしているか b:日常生活と経済の関わりを多面的にとらえ、経済活動のようすを適切に表現している c:資料を活用し、情報をまとめている d:複雑化する国際社会の問題を理解し、その知識を身につけているか	定期考査 プリント
三学期	わたしたちの生きる世界	・環境と私たちの生活 ・資源・エネルギー問題と私たちの生活	○	○	○	○	a:地球規模の課題に対する関心を高めようとしているか b:地球環境問題の原因や人々に与える影響を理解し、適切に正しく表現している c:資料を活用し、情報をまとめている d:科学技術の進歩がもたらす恩恵と課題を理解し、その知識を身につけている	定期考査 プリント

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。